

(別紙)

成果の説明書

(氏名) 飯島明宏	(学部) 地域政策学部
1 重要事項 ● 環境省推進費による研究 全国の環境研究機関の有機的連携による PM2.5 汚染の実態解明と発生源寄与評価 PM2.5 の発生源寄与率を評価するため、各種発生源の化学組成プロファイルを作成し、リセプターモデルを用いて国内汚染の影響と越境汚染の寄与を評価した。主な成果について以下の通り発表した。 (1) 飯島明宏. (2014). リセプターモデルを用いた PM2.5 の発生源寄与解析. 第 29 回全国環境研究所交流シンポジウム, つくば市. (2) 飯島明宏. (2013). PM2.5 の発生源解析～因子分析および PSCF 解析による国内汚染／越境汚染の識別～. 平成 25 年度地方環境研究所との共同研究ミーティング, つくば市. (3) Nakajima K. and Iijima A. (2013). Clarification of the predominant factors of high PM2.5 pollution in Japan. 8th Asian Aerosol Conference 2013, Sydney, Australia. (4) 飯島明宏, 池盛文数, 長谷川就一, 菅田誠治. (2013). PM2.5 発生源寄与評価の現状と展望. 第 54 回大気環境学会年会, 新潟市. (5) 飯島明宏. (2013). PM2.5 の発生源はどこまで解明できるか? -リセプターモデルによる挑戦-. プラズマ分光分析研究会 2013 筑波セミナー. つくば市. (6) 飯島明宏. (2013). PMF モデルを用いた大気エアロゾルの発生源寄与解析. 第 39 回酸性雨問題研究会シンポジウム, 東京. ● 科研費基盤 C による研究 水環境健全性指標を利用した河川生態系評価に学ぶエコツーリズムの開発 神流川の河川生態系についてフィールド調査を行い、エコツーリズムにおいて利用可能な教材開発を行った。また、研究成果を基にカード型図鑑を作成し、地域の子供たちを対象とした環境学習会を実践した。主な成果について以下の通り発表した。 (7) 山口直哉, 中島穂泉, 高坂真一郎, 梅澤真一, 佐藤侑介, 小澤邦壽, 飯島明宏. (2014). 群馬県神流川上流森林域からの窒素流出に関する実態調査, 第 48 回日本水環境学会年会, 仙台市. (8) 黒岩洋佑, 飯島明宏. (2014). CVM による神流川流域の自然の価値評価, 第 48 回日本水環境学会年会, 仙台市. (9) 吉井咲夢, 飯島明宏. (2014). 利根川水系神流川上流域における窒素収支と森林の窒素飽和, 第 48 回日本水環境学会年会, 仙台市. (10) Yoshii S., Abe M. and Iijima A. (2013). Current Status of Nitrogen Saturation in	

the Upper Reaches of the Kanna River, Japan, International Journal of Computer, Information Science and Engineering, 7, 478-482.

(11) 飯島明宏. (2013). 里地里山に学ぶ自然生態系との共生-生物多様性保全の在り方を考える-. ぐんま環境学校 (エコカレッジ) . 前橋市.

(12) 馬場龍樹, 飯島明宏. (2013). カード型図鑑による生物多様性教育プログラムの開発と実践. 日本環境教育学会第 24 回大会, 大津市.

2 その他の事項

- 上記以外の研究成果として、以下の学術論文を発表した。

(13) Ito M. and Iijima A. (2013). Text Mining Analysis of the Reconstruction Plans after the Great East Japan Earthquake. International Journal of Computer, Information Science and Engineering, 7, 710-713.

(14) 齊藤由倫, 飯島明宏, 木村真也, 小澤邦壽 (2013). 温泉流動の理解を目的とした温泉水中希土類元素の地球化学的指標性の検討. 温泉科学, 63, 141-157.